資料2

第3回ビジョン検討会議
委員意見要旨
（令和元年12月20日開催）

令和2年1月21日

山梨県

第3回ビジョン検討会議 委員意見要旨

○ビジョンで目指す姿と実現に向けた取り組みについて

- ✓ 全体の流れとしては良くできている。着眼大局・着手小局がポイントであり、トータル的な絵姿は共有しながらも、**あまり幅広に手を付けず、一つの成功事例をつくることが大事。**具体的な誘致を通して、どういうものを求めているかを手探りでやりながら、一つの成功を以って他を引き付けていく。
- ✓ テストベッドの誘致では、地勢学的な優位性だけでなく、具体的に何をしていくかをパッケージで言うことが大事。また、**コアとなる企業とコミュニケーションを取りながら、相手に合わせて必要なものを用意する形で進めたらどうか**。
- ✓ 日照時間が長く、水素・燃料電池もあるので、持続的な都市をつくるためのテストベッドというストーリーがつくれるのではないか。**あまり作り込まず、徐々に町が変容していくモデルをデザインする。**最終的にはサーキュラー・エコノミー（循環型経済）を目指してそれを支える技術やサービスを考え、それに関係する企業や起業家を呼ぶことが考えられる。
- ✓ 一点集中で山梨らしさや企業側の視点で考えると、**水素･燃料電池を中核とするクリーンエネルギーのエコシステムを構築**するための実証実験の場にしていくとすれば、具体的な企業もイメージでき、可能性があるのではないか。
- ✓ **テストベッドをやるには投資ファンドも必要**になるが、100億円も必要な訳ではなく、恐らく15～20億円程度あれば十分。呼び水になるし、将来的な関連産業の集積や次世代を担う人材育成にも大きく資する。
- ✓ この資料では、外から新しいものをたくさん呼び込んでくるように見えるが、県内で新しいことにチャレンジしている人たちもいると思うので、**今いる県民・企業と新しい人たちがうまく融合するような計画を立てていくべき。「雇用の拡大」と「所得の向上」を打ち出すことはすごく大事。**若者が東京に進出してしまうのは地方に仕事がないため。雇用も量的な拡大というより、テストベッドを活かしてベンチャーなどの職種が入ってくるような多様性が生まれると良い。
- ✓ リニア駅と他駅をシャトルバスで結ぶということであれば、クリーンエネルギーとモビリティを組み合わせた自動運転のＦＣ(燃料電池)バスを走らせ、燃料も地産という見せ方ができると良い。最近では、グリーンスローモビリティとして、ラストマイルのＦＣ化の動きもあるので、最先端で環境にも配慮した取り組みとして外に見せたらどうか。**テストベッドで終わるのではなく、サスティナブルなことを取り入れながら地域に根ざしていくという、実装の形にできることが重要。**
- ✓ テストベットと関連する産業と観光を上手く結び付けることが大事。都内には、「山梨のワイン工房を楽しみながら自動運転車で巡る」というアイデアを持ち、実証実験の場として山梨に興味を持つ企業もいる。
- ✓ 「やまなしライフ」は、先進的なものと自然なものが混じっているものとして、それを好む人を惹きつけ、**街自体が上質な交流空間となるようにテストベッドを街づくりにうまく埋め込む話になると良い。**

第3回ビジョン検討会議 委員意見要旨

○災害に強いリニアを活かした防災力の強化について

- ✓ 国難災害が起きた時に大事なのは政府の中枢機能であり、本部機能の予備的な順序として、官邸⇒内閣府⇒防衛省本部⇒立川の広域防災基地というように考えられているが、それ以降は決まっていない。その際に、**リニアが災害時にも活用できることが前提となるが、地理的に首都圏、中京圏との関係を考えると、山梨にはバックアップ拠点の可能性がある。**
- ✓ 山梨自身が色々な災害に強い安全な地域であることが前提となるが、過去の災害や今後の被害想定などを踏まえ、しっかりと対応できるようにすべき。リニアも地震や水害、火山噴火に強い交通インフラとして整備して頂きたい。
- ✓ 政府に施設を持ってきてくれと言うだけでなく、県自らが防災拠点として位置付ける必要があり、それが他の広域防災拠点としてのバックアップ機能も持つという考え方につながる。**新たに核となる施設をつくる必要もあるかと思うが、既存の施設、民間施設も大いに活用していくことも考えられる。**

○新たなゲートウェイに必要となる機能について

- ✓ 必須に掲げた３つの機能（交通結節機能、インフォメーション機能、オープンスペース機能）は必要だ。しかし、民間参入が見込まれる機能は慎重に考えるべきで、コンベンションはかなり投資額が大きくなる。**サービス提供機能は「道の駅」として、リニア利用者だけでなく車利用者もセットで取り込むという考え方もある。**
- ✓ 建物などハードに注目しない方がいい。機能に着目すべきだ。利用者がいるのだから、段階的にやってもいい。
- ✓ リニアができる2027年であれば、XR（VR（仮想現実）、MR（複合現実）、AR（拡張現実））が当たり前の世界となっているので、どのように観光客を誘導させるか、体験の形も変わってくる。実現しているであろうテクノロジーをどう使っていくか、そこはスタートアップのアイデアを取り込む仕組みを入れながら開発していくというのもある。
- ✓ **中央自動車道との直結を意識したハブになることを意識すべきだ。**
- ✓ 高速道路との結節をどれだけ真剣に考えるか。県内と長野、静岡にどう運んでいくかを考える、インターモーダル（複数の輸送手段の組み合わせ）のハブ、モーダルコネクト（複数交通機関の接続）をどう展開していくかが大事だ。P&R駐車場はしっかりと作ることが大事で、将来的には自動運転が展開されていくという意味で後で土地利用も集約できるのでその後の土地利用も考えるとよい。
- ✓ **リニア駅前は山梨の顔であり司令塔となるので、ハザードマップを十分踏まえて安全対策をとる必要がある。**今後、産業や観光、防災も含めて県内拠点の結節点として、駅及び駅周辺は大事な場所となってくるので、リニア駅には災害時にもアクセスできる工夫をしていただきたい。